

富士総合研究所

クラスター組織が支える 経営システムインテグレータの 総合力

富士銀行系シンクタンクであり、SI事業者でもある富士総合研究所は、自らを経営システムインテグレータと位置づけている。情報システムはかつてのような合理化や省力化だけの目的ではなく、企業の戦略インフラそのものになってきている。経営戦略の成否は情報技術の活用への優劣にかかっており、情報システムと経営システムを最適に結合できる経営システムインテグレータが求められている

本社 ● 〒100 東京都千代田区大手町1-5-4
大手町フィナンシャルセンター 18階
電話 ● 03-5476-2251 (システムコンサルタンツグループ)
代表者 ● 代表取締役社長 澁谷禎一
設立 ● 1988年10月
資本金 ● 16億円
社員数 ● 2,164名
事業内容 ● コンサルテーションサービス (システムコンサルティング・経営コンサルティング)。システムインテグレーションサービス・アウトソーシングサービス・ITアセスメントサービス・情報技術R&D
得意とする分野 ●
情報戦略策定支援 (全社システム統合化・システム再構築)・業務改革支援・情報風土診断・システム評価・テクニカルリサーチ・クレジットカードシステム・生産管理システム
ホームページアドレス ● <http://www.fuji-ric.co.jp>



代表取締役社長 澁谷 禎一

というわけだ。

同社においてこれを支えているものが、各分野で一級の実績をあげているミクロ・マクロの調査・研究開発、経営コンサルティンク、大規模システム開発・運営を担当する組織の存在と、それを顧客のニーズにダイナミックに対応させたクラスター制度である。

この制度は、従来のような分野別、システム別の縦割り組織で仕事を請け負うのではなく、クラスターと呼ぶ小単位の組織が顧客の要望全体に責任を持つコンサルティング・グループをつくり、当該プロジェクト遂行の司令塔として、同社内の情報資源や必要な組織をその下にダイナミックに組み合わせて顧客ニーズに総合的に応える組織体制である。各企業に求められるシステムは、経営戦略から組織、人事、マーケティング、財務等経営システム全体の分析・改善の方向をコンサルすることから始まり、その上でニーズにあったシステム構築をしていくことになる。このプロセスを効率よく進めるには、同社のこのクラスター制度が有力な武器になっている。

また、経営課題を解決する手段としての先端技術の分野でも、同社ならではの取り組みがみられる。その代表が、業界に先駆けて1990年に西葛西センター内につくられた、研究開発用プラットフォームPIER21という施設。

これは様々なメーカーのハードやソフトを複合的につないだLAN環境の実証実験システムである。オープン化が進んでいる現在、ネットワークというのは、実際に稼働させてみないと、その能力や課題がみえてこない。その接続性の実証のために、インターロップなどの世界的なイベントすら開かれるほどだ。PIER21は、その場を日常的に用意したわけである。

ここには、ベンダーに対して中立な同社ならではの特長とともに、「富士総研の提供するものは、ベンダーではなく、われわれに責任がある」と言い切る同社の自負と顧客サービスの姿勢が端的に現れている。情報システムが企業の根幹に関わる時代だからこそ、同社のような、経営に適切なシステムを提供できる経営システムインテグレータが求められるのである。